

牧草品種選定のポイントと 優良品種の紹介

チモシーの熟期選定

高栄養価の牧草を生産するために刈り取り時期を早めたり、反対に高乾物収量の牧草を生産するために刈り取り時期を遅らせたりと、牧草の刈り取り時期は何を重視するかによって変わります。図1は道内におけるチモシーの出穂始、出穂期(50%が出穂)、出穂揃期(100%が出穂)の目安です。近年では高栄養価の牧草を収穫するために、早刈りが薦められております。しっかり予乾できる収穫体系であれば良いのですが、コントラクターによる収穫作業など水分調整が難しい場面で早刈りを実施すると、原料草が高水分となり、サイレージの発酵品質が不良となることも少なくありません。6月中～下旬に刈り取った早生品種ホライズンと中生品種ホクエイの乾物率の比較を図2に示しました。6月中～下旬の収穫時期に出穂期～出穂揃期を迎えるホライズンのほうが生育が進んでいるため、乾物率が高く(水分含量が低く)なっています。この数パーセントの乾物率の差がサイレージの発酵品質に大きな影響を及ぼすこともあります。

また、チモシーは再生が緩慢な草種であるために、本来は早刈りには不向きです。継続した早刈りは草地

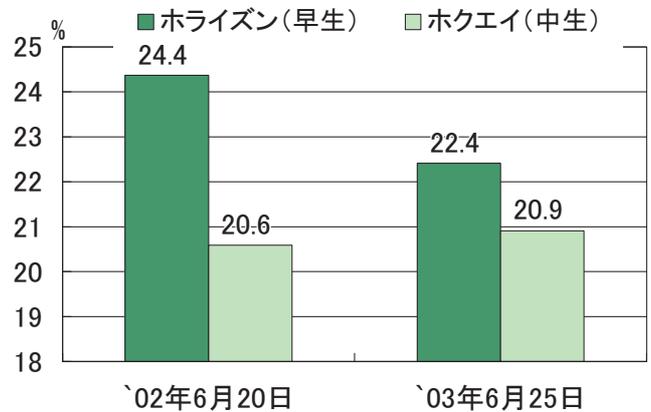


図2. 乾物率の品種間差(雪印種苗北海道研究農場)

の持続性にも影響しますので注意が必要です。

チモシー早生品種「ホライズン」

ホライズンは道内の収穫最盛期(6月中～下旬)に出穂期～出穂揃期を迎える早生品種です。前述の通り、水分調整が困難と予想される場合は、ホライズンの利用をお薦めします。この品種の特徴は、再生力が優れ、1番草のみならず2番草も出穂茎が豊富で多収です。チモシー品種の中では競合力が強いために、アルファ

地域	品種	6/5	6/10	6/15	6/20	6/25	6/30	7/5	7/10	7/15
		道央・道南	ホライズン		出穂始	出穂期	出穂揃			
	ホクエイ				出穂始	出穂期	出穂揃			
	シリウス						出穂始	出穂期	出穂揃	
十勝・北見	ホライズン		出穂始	出穂期	出穂揃					
	ホクエイ				出穂始	出穂期	出穂揃			
	シリウス						出穂始	出穂期	出穂揃	
根釧・道北	ホライズン				出穂始	出穂期	出穂揃			
	ホクエイ					出穂始	出穂期	出穂揃		
	シリウス							出穂始	出穂期	出穂揃

図1. 道内におけるチモシーの出穂始、出穂期、出穂揃の目安

ルファやアカクロバの早生品種との混播適性が優れます。また、耐倒伏性も優れます。倒伏すると、収穫ロスが多くなるだけでなく、地際の蒸れによる裸地化、牧草が乾きにくく高水分となることによりサイレージの発酵品質が低下します。

チモシー中生品種「ホクエイ」

出穂始の収穫は栄養価の高い牧草が得られます。ホクエイは6月中～下旬の収穫最盛期に出穂始～出穂期を迎える中生品種で、最近では刈り取り回数を少なくしたいという意向から再生力が穏やかな中生品種を選ぶ方も増えております。ホクエイは中生品種の中では耐倒伏性に優れます。しかし、ホライズンと比較すると、出穂までの期間が長くなり生育量が多くなる分、倒伏しやすくなります。

チモシー晩生品種「シリウス」

シリウスは6月下旬に出穂始を迎える晩生品種で、遠隔地など遅く収穫する草地に最適です。根釦や道北などの冷涼地域では、6月は気温の上昇が十分でないために、乾草調製は7月以降に行われるのが一般的です。この場合、出穂の遅いシリウスを利用することで、栄養価や家畜の嗜好性の低下を最小限に抑えることができます。チモシーの主要病害である斑点病は、刈り遅れると多発しますが、シリウスは斑点病抵抗性も優れることから、遅く収穫する草地に適した品種といえます。また、シリウスは2番草以降、出穂茎がほとんどなく、放牧条件における分けつ数も多いことから、採草放牧兼用地にも適しています。

放牧地におけるチモシーの品種を選定する場合は熟期に留意する必要があります。チモシーの早生品種を放牧地で利用すると、2番草以降の出穂茎数が多いために、家畜の採食性が劣ります。また、放牧条件における分けつ数も晩生品種に比べて劣る傾向があり、草地の衰退が早まります。

アカクロバ晩生品種「アレス」

アレスは6月下旬～7月上旬にかけて開花始を迎え、晩生品種の中でも開花の遅い品種です。2番草は全く開花しません。生育が非常に穏やかであるために、再生力が穏やかなチモシーの中生・晩生品種との混播に最も適しています。また、春播きなどアカクロバが優占しやすい条件においてはチモシー早生品種との混播にも適します。最近では気温が高めとなり、マメ科草種が優占しやすい傾向にあります。チモシーを抑圧しないアレスはマメ科率の変動が少なく、飼料成分が安定するため利用しやすいアカクロバです。

アルファルファ「ケレス」

越冬性（雪腐病抵抗性や耐凍性）が優れており、全道で栽培が可能な多収品種です。これまでアルファルファの栽培が難しかった根釦などの土壤凍結地域でもその永続性が確認されており、好評を得ています。ケレスのもう1つの特徴は、そばかす病抵抗性が優れる点です。そばかす病は夏～秋にかけて発生する病害で、罹病すると葉が黄化し、枯れ落ちてしまうため、光合成能力や収量の低下を引き起こします。ケレスはそばかす病抵抗性が優れるため、光合成を盛んに行い、越冬に必要な栄養分を蓄えることが可能で、それが永続性の良さにもつながっています。また、アルファルファ草地にはギシギシ用除草剤「ハーモニー」の利用が可能です。クロバ類はハーモニー散布により甚大な薬害が発生します。ギシギシが多い草地はアルファルファとハーモニーを上手に利用しましょう。

これまでご紹介した牧草品種は全て北海道優良品種です。「北海道優良品種」とは予備検定試験として3年、本検定試験として全道の6試験場で3年、合計6年の評価を経て、既存の対照品種と比較してその優良性が認められた品種です。雪印の北海道優良品種を正しく利用して、良好な草地を保ちましょう。

(寒地牧草・飼料作物研究グループ 横山)